

(様式第 10)

帝大病第 14-706 号  
平成 年 月

厚生労働大臣 殿

開設者名 冲永 佳

帝京大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 26 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1
氏 名	学校法人 帝京大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

帝京大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒173-8606 東京都板橋区加賀2-11-1	電話 (03)3964-1211(代)
-----------------------------	---------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> ①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 <input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 循環器内科 2 心療内科 3 緩和ケア内科 4 腫瘍内科 5 神経内科 6 7	
8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無						
外科と組み合わせた診療科名							
1 小児外科	2 消化器外科	3 心臓血管外科	4 形成外科	5 美容外科	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
診療実績							

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

<del>1精神科</del>	<del>2小児科</del>	<del>3整形外科</del>	<del>4脳神経外科</del>	<del>5皮膚科</del>	<del>6泌尿器科</del>	<del>7産婦人科</del>
8産科	9婦人科	<del>10眼科</del>	<del>11耳鼻咽喉科</del>	<del>12放射線科</del>	13放射線診断科	
14放射線治療科		<del>15麻酔科</del>	<del>16救急科</del>			

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無						
歯科と組み合わせた診療科名							
1 歯科口腔外科	2 矯正歯科	3 小児歯科	4	5	6	7	
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1病理診断科	2 リハビリテーション科	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
47 床	床	床	床	1,107 床	1,154 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 26年 10月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	396人	3.49人	399.4人	看護補助者	26人	診療エックス線技師	人
歯科医師	6人	0.05人	6.0人	理学療法士	23人	臨床検査技師	82人
薬 剤 師	58人	1.4人	59.4人	作業療法士	9人	衛生検査技師	人
保 健 師	人	人	人	視能訓練士	11人	その他	人
助産師	50人	人	50.0人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	1055人	10.6人	1065.6人	臨床工学技士	17人	医療社会事業従事者	6人
准看護師	8人	0.5人	8.5人	栄 養 士	人	その他の技術員	6人
歯科衛生士	5人	0人	5.0人	歯 科 技 工 士	0人	事務職員	174人
管理栄養士	7人	0.5人	7.5人	診療放射線技師	51人	その他の職員	9人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 26年 10月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	30 人	眼科専門医	7 人
外科専門医	37 人	耳鼻咽喉科専門医	11 人
精神科専門医	7 人	放射線科専門医	11 人
小児科専門医	12 人	脳神経外科専門医	14 人
皮膚科専門医	6 人	整形外科専門医	31 人
泌尿器科専門医	6 人	麻酔科専門医	17 人
産婦人科専門医	17 人	救急科専門医	15 人
		合 計	221 人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	817.5 人	5.2 人	822.7 人
1日当たり平均外来患者数	1,743.3 人	53.8 人	1,797.1 人
1日当たり平均調剤数			2,002.4 剤
必要医師数			190 人
必要歯科医師数			1 人
必要薬剤師数			28 人
必要(准)看護師数			472 人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

### 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備		概 要	
集中治療室	1,506.53 m <sup>2</sup> (1人当たり 25.1 m <sup>2</sup> )	鉄筋コンクリート	病床数	60床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 178.86 m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 2台		病床数	12	床	
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] 床積 30.81 m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	19.29m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 低温恒温器,中央実験台,キューリーマータ			
細菌検査室	140.60m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動細菌検査装置,生物顕微鏡,安全キャビネット			
病理検査室	264.05m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) ミクロトム,自動固定包埋装置,顕微鏡			
病理解剖室	74.58m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台,臓器撮影台,臓器固定水洗槽			
研究室	3,067.52 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) ドラフトチャンパー等			
講義室	488.90m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	13室	収容定員	260人
図書室	3,020.73 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	2室	蔵書数	22万冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

### 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日	
紹介率	64.8%	逆紹介率	41.1%
算出 根拠	A: 紹介患者の数	16,190人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	13,575人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	5,196人	
	D: 初診の患者の数	32,976人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	1 人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	0 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
パクリタキセル腹腔内投与及び静脈内投与並びにS-1内服併用療法腹膜播種又は進行性胃がん(腹水細胞診又は腹腔洗浄細胞診により遊離がん細胞を認めるものに限る。)	10 人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)	3 人
ペメトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与併用療法肺がん(扁平上皮肺がん及び小細胞肺がんを除き、病理学的見地から完全に切除された判断されるものに限る。)	0 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	多焦点眼内レンズ	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 白内障の手術において、遠近両用の眼内レンズを挿入する。			
医療技術名	ロボット補助下子宮全摘術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 daVinci を用いたロボット補助下子宮全摘術を4例施行した。			
医療技術名	種々の呼吸器疾患における呼気一酸化窒素濃度 (FeNO)測定	取扱患者数	150人
当該医療技術の概要 呼気一酸化窒素濃度 (FeNO)は、気道のアレルギー性炎症を示す好酸球性炎症を反映し、喘息診療で主に保険適応として用いられている。結果は約100秒で得られ、外来ブースで施行可能である。一般に、好酸球性炎症を有する疾患はステロイド反応性がよい。また、好酸球性炎症を認める疾患は喘息が代表的であるが、他の疾患でも認められることがある。我々は慢性咳嗽、COPDも対象としてFeNO測定を行い、吸入ステロイド薬奏功例をリアルタイムで検出し、迅速な治療方針決定に役立っている。			
医療技術名	好塩基球ヒスタミン遊離反応によるアレルギー同定	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 アレルギー患者の好塩基球ヒスタミン遊離試験は、血液を用いてアレルギー反応を体外で起こさせる試験法であり、患者に直接アレルギーを投与する必要がないので安全にアレルギーを同定できるという特徴を有する。一部の食物アレルギーに対してのみ保険適応がある。本試験法を用いて、本学の研究室内で、アナフラキシー既往を有する患者に対して本検査を行った。			
医療技術名	好塩基球活性化試験によるアレルギー同定	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 アレルギー患者を対象とする好塩基球活性化試験(Basophil Activation Test, BAT)は血液を用いて細胞の鋭敏な活性化を好塩基球表面のCD203c発現で判定し、患者に直接アレルギーを投与する必要がないので安全にアレルギーを同定できるという特徴を有する。アナフィラキシー既往を有するが保険適用のある検査では原因を特定できない患者に対して本検査を行った。			
医療技術名	経カテーテル大動脈弁植込み術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 弁尖の硬化変性に起因する重度大動脈弁狭窄症(慢性維持透析を行っている患者に係るものに限る。)本医療で使用される機器は、狭窄した大動脈弁に植え込まれる人工弁(以下、生体弁)とそれを適正位置まで送達するデリバリーシステムで構成される。生体弁はステンレス製のステント状フレームにウシの心のう膜弁(三葉の組織弁)がマウントされたものである。デリバリーシステムは、経皮的冠動脈形成術と同様にバルーンカテーテルとシースイントロデューサおよびダイレータ等で構成される。 留置方法には経大腿アプローチと経心尖アプローチの2方法ある。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	144 人	・膿疱性乾癬	2 人
・多発性硬化症	32 人	・広範脊柱管狭窄症	3 人
・重症筋無力症	56 人	・原発性胆汁性肝硬変	23 人
・全身性エリテマトーデス	164 人	・重症急性膵炎	1 人
・スモン	0 人	・特発性大腿骨頭壊死症	7 人
・再生不良性貧血	22 人	・混合性結合組織病	11 人
・サルコイドーシス	20 人	・原発性免疫不全症候群	1 人
・筋萎縮性側索硬化症	13 人	・特発性間質性肺炎	11 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	80 人	・網膜色素変性症	16 人
・特発性血小板減少性紫斑病	50 人	・プリオン病	0 人
・結節性動脈周囲炎	22 人	・肺動脈性肺高血圧症	2 人
・潰瘍性大腸炎	57 人	・神経線維腫症	12 人
・大動脈炎症候群	5 人	・亜急性硬化性全脳炎	0 人
・ピュルガー病	8 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0 人
・天疱瘡	10 人	・慢性血栓栓性肺高血圧症	0 人
・脊髄小脳変性症	10 人	・ライソゾーム病	2 人
・クローン病	42 人	・副腎白質ジストロフィー	1 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0 人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0 人
・悪性関節リウマチ	9 人	・脊髄性筋萎縮症	0 人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	36 人	・球脊髄性筋萎縮症	2 人
・アミロイドーシス	0 人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	13 人
・後縦靭帯骨化症	7 人	・肥大型心筋症	4 人
・ハンチントン病	1 人	・拘束型心筋症	0 人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	14 人	・ミトコンドリア病	0 人
・ウェゲナー肉芽腫症	10 人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0 人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	12 人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0 人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	7 人	・黄色靭帯骨化症	0 人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0 人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	16 人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・特定集中治療室管理料3・4
・歯科外来診療環境体制加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・特定機能病院入院基本料	・新生児治療回復室入院医療管理料
・臨床研修病院入院診療加算	・小児入院医療管理料2
・救急医療管理加算	・
・超急性期脳卒中加算	・
・妊産婦緊急搬送入院加算	・
・診療録管理体制加算2	・
・急性期看護補助体制加算	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1・2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・ハイリスク妊婦管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院調整加算	・
・救急搬送患者地域連携紹介加算	・
・救急搬送患者地域連携受入加算	・
・データ提出加算	・
・救命救急入院料3・4	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・センチネルリンパ節生検(併用・単独)
・植込型除細動器移行期加算	・画像診断管理加算1・2
・高度難聴指導管理料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・がん性疼痛緩和指導管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・がん患者指導管理料1・2・3	・冠動脈CT撮影加算
・外来緩和ケア管理料	・外傷全身CT加算
・院内トリアージ実施料	・大腸CT撮影加算
・ニコチン依存症管理料	・心臓MRI撮影加算
・地域連携診療計画管理料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・がん治療連携計画策定料	・外来化学療法加算1
・がん治療連携管理料	・無菌製剤処理料
・肝炎インターフェロン治療計画料	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)
・薬剤管理指導料	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
・医療機器安全管理料1・2・(歯科)	・運動器リハビリテーション料(I)
・歯科治療総合医療管理料	・呼吸器リハビリテーション料(I)
・造血器腫瘍遺伝子検査	・がん患者リハビリテーション料
・HPV核酸検出及び簡易ジェノタイプ判定	・集団コミュニケーション療法料
・検体検査管理加算(I・IV)	・歯科口腔リハビリテーション料2
・植込型心電図検査	・精神科ショート・ケア「大規模なもの」
・時間内歩行試験	・精神科デイ・ケア「大規模なもの」
・胎児心エコー法	・抗精神病特定薬剤治療管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る)
・ヘッドアップティルト試験	・医療保護入院等診療料
・皮下連続式グルコース測定	・エタノールの局所注入(甲状腺)
・神経学的検査	・透析液水質確保加算2
・補聴器適合検査	・一酸化窒素吸入療法
・ロービジョン検査判断料	・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
・小児食物アレルギー負荷検査	・組織拡張期による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・内服・点滴誘発試験	・骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・体外衝撃波腓石破碎術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剝離術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・網膜再建術	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込骨導補聴器交換術	・腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、 腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科)	・腎腫瘍凝固・焼却術(冷凍凝固によるもの)
・下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科)	・生体腎移植
・乳がんセンチネルリンパ節加算1・2	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・経皮的冠動脈形成術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・経皮的冠動脈ステント留置術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6に掲げる手術
・経皮的大動脈弁置換術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術 (胃瘻造設時嚥下機能評価加算)
・経皮的中隔心筋焼灼術	・輸血管理料 I
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・輸血適正使用加算
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・自己生体組織接着剤作成術
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術 (レーザーシースを用いるもの)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・内視鏡手術用施設機器加算
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・補助人工心臓	・歯周組織再生誘導手術
・経皮的大動脈遮断術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・ダメージコントロール手術	・麻酔管理料(I)・(II)
・体外衝撃波胆石破碎術	・放射線治療専任加算
・腹腔鏡下肝切除術	・外来放射線治療加算

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高エネルギー放射線治療	・
・1回線量増加加算	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療(IGRT)	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・直線加速器による放射線治療(定位放射線治療)	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・
・病理診断管理加算2	・
・口腔病理診断管理加算2	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・遺伝学的検査(先天性銅代謝異常症遺伝子診断)	・
・超音波骨折治療法	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に1回程度
剖 検 の 状 況	剖検症例数 37 例 / 剖検率 4.80%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
別紙1参照				補	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	

計

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部署	金額	補助元又委託元
気管支喘息に対する喘息死の予防や自己管理手法の普及に関する研究+	長瀬洋之	内科	¥1,000,000	補委 厚生労働省
C.Difficileと腸管常在菌による腸管上皮細胞活性化の制御	太田康男	内科	¥1,100,000	補委 文部科学省
安全かつ効果的な抗HIV療法開発のための研究	太田康男	内科	¥3,000,000	補委 厚生労働省
国内で流行するHIVとその薬剤耐性株の動向把握に関する研究	太田康男	内科	¥1,000,000	補委 厚生労働省
新規敗血症バイオマーカー-endocanの統合的解析	北沢貴利	内科	¥2,100,000	補委 文部科学省
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	滝川 一	内科	¥1,500,000	補委 厚生労働省
原発性免疫不全症候群に関する調査研究	河野 肇	内科	¥1,000,000	補委 厚生労働省
動脈硬化におけるチロシンキナーゼSykを介した自然免疫炎症の解明	河野 肇	内科	¥5,070,000	補委 文部科学省
動脈硬化におけるチロシンキナーゼSykを介した自然免疫炎症の解明	河野 肇	内科	¥670,268	補委 文部科学省
尿細管イオン輸送体の機能発現を制御する機構の解明	種本雅之	内科	¥1,300,000	補委 文部科学省
細胞死に対する自然免疫の機序の解明およびその関節リウマチへの関与	河野 肇	内科	¥1,300,000	補委 文部科学省
新規敗血症バイオマーカー-endocanの統合的解析	北沢貴利	内科	¥2,100,000	補委 文部科学省
インターロイキン1βの皮膚線維芽細胞に対する影響に関する研究	白藤尚毅	内科	¥2,210,000	補委 文部科学省
インターロイキン1βの皮膚線維芽細胞に対する影響に関する研究	岡 陽子	内科	¥200,000	補委 文部科学省
インターロイキン1βの皮膚線維芽細胞に対する影響に関する研究	白崎良輔	内科	¥200,000	補委 文部科学省
新規制御性T細胞の誘導促進による自己免疫疾患治療法開発	岡本明子	内科	¥2,470,000	補委 文部科学省
腎血管特異的なRNA干渉による腎移植後拒絶反応回避に向けた戦略的研究	内田俊也	内科	¥65,000	補委 文部科学省
酸塩基調節における腎尿細管カリウムチャネルの役割	種本雅之	内科	¥195,000	補委 文部科学省
トロポニン陽性ACSにおける治療の現状とその効果の実態調査	上妻 謙	内科	¥135,000	補委 (独)国立循環器病研究センター
ペバシズマブの抗腫瘍活性を規定する新規バイオマーカーの探索	住本秀敏	腫瘍内科	¥600,000	補委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部署	金額	補助元又委託元
ベバシズマブの抗腫瘍活性を規定する新規バイオマーカーの探索	江口研二	腫瘍内科	¥50,000	補委 文部科学省
計算解剖モデルに基づく診断支援	江口研二	腫瘍内科	¥500,000	補委 文部科学省
診断時から早期に緩和ケアを提供する体制整備に関する研究	関順彦	腫瘍内科	¥6,000,000	補委 厚生労働省
診断時から早期に緩和ケアを提供する体制整備に関する研究	江口研二	腫瘍内科	¥0	補委 厚生労働省
産業衛生の現場における認知行動療法プログラムを活用したうつ病の予防・改善の研究	中尾睦宏 竹内武昭	心療内科	¥4,600,000	補委 文部科学省
非正規雇用により生じる社会経済格差が家族の健康に及ぼす影響	錦谷まりこ 中尾睦宏	心療内科	¥600,000	補委 文部科学省
職場におけるメンタルヘルス対策の有効性と費用対効果等に関する調査研究	横山和仁 中尾睦宏 竹内武昭	心療内科	¥400,000	補委 厚生労働省
神経変性疾患に関する調査研究班	園生雅弘	神経内科	¥1,300,000	補委 厚生労働省
免疫性神経疾患に関する調査研究	園生雅弘	神経内科	¥1,000,000	補委 厚生労働省
新しい表面筋電図定量解析法、CI法の開発と臨床応用	園生雅弘	神経内科	¥1,200,000	補委 文部科学省
神経系におけるジストログリカンN末端ドメインの未知機能と病態関与の解明	松村喜一郎 斉藤史明 真先敏弘 萩原宏毅	神経内科	2,210,000円	補委 文部科学省
ニューロパチーにおけるラミニンとジストログリカンの相互作用の解析と治療への応用	松村喜一郎 斉藤史明 真先敏弘 萩原宏毅	神経内科	1,430,000円	補委 文部科学省
SIRT1活性化物質レスベラトロールの筋萎縮に対する長期的効果の検討	松村喜一郎 斉藤史明 真先敏弘 萩原宏毅	神経内科	1,900,000円	補委 文部科学省
ニューロパチーにおけるラミニンとジストログリカンの相互作用の解析と治療への応用	斉藤史明	神経内科	¥1,430,000	補委 文部科学省
糖転移酵素LARGEを用いたジストログリカンの機能亢進による新規癌治療法の開発	清水輝夫	神経内科	¥1,560,000	補委 文部科学省
筋ジストロフィーおよび関連疾患の診断・治療を目指した基盤研究	齋藤史明	神経内科	¥1,000,000	補委 (独)国立精神・神経医療研究センター
マウス代償性肺成長におけるNotch/TTF-1シグナルの幹細胞ニッチへの関与	高橋祐介	外科	¥3,120,000	補委 日本学術振興会

小計17



研究課題名	研究者氏名	所属部署	金額	補助元又委託元
凍結融解壊死療法後樹状細胞腫瘍内注入療法の最適化	高橋祐介 松谷哲行 泉陽太郎	外科	¥4,810,000	補委 日本学術振興会
マウスの心臓移植モデルによる拒絶反応抑制に関わる漢方薬の作用機序の解析	内山雅照	外科	¥5,200,000	補委 文部科学省
抗BTLA抗体とHMG-CoA還元酵素阻害薬による冠動脈内膜肥厚抑制効果	内山雅照	外科	¥2,600,000	補委 文部科学省
腹膜播種を伴う胃癌に対するS-1+パクリタキセル経静脈・腹腔内併用療法/S-1+シスプラチン併用療法による第Ⅲ相臨床試験	福島亮治	外科	¥1,600,000	補委 厚労省
胃癌の腹腔遊離癌幹細胞による腹膜再発および治療効果予測診断法の開発	飯沼久恵	外科	¥1,950,000	補委 文部科学省
ペバシズマブの抗腫瘍活性を規定する新規バイオマーカーの探索	橋口陽二郎	外科	¥65,000	補委 文部科学省
マウスの心臓移植モデルによる拒絶反応抑制に関わる漢方薬の作用機序の解析	新見正則	外科	¥1,820,000	補委 文部科学省
大腸癌の循環癌幹細胞による分子標的薬治療効果予測診断と臨床応用	飯沼久恵	外科	¥1,950,000	補委 文部科学省
大腸癌の循環癌幹細胞による分子標的薬治療効果予測診断と臨床応用	山田英樹	外科	¥65,000	補委 文部科学省
大腸癌の循環癌幹細胞による分子標的薬治療効果予測診断と臨床応用	端山 軍	外科	¥65,000	補委 文部科学省
急性胆管炎診療における血清プロカルシトニン濃度測定の有用性の検討	佐野圭二	外科	¥130,000	補委 文部科学省
急性胆管炎診療における血清プロカルシトニン濃度測定の有用性の検討	天野穂高	外科	¥130,000	補委 文部科学省
急性胆管炎診療における血清プロカルシトニン濃度測定の有用性の検討	豊田真之	外科	¥130,000	補委 文部科学省
急性胆管炎診療における血清プロカルシトニン濃度測定の有用性の検討	和田慶太	外科	¥130,000	補委 文部科学省
大腸癌血清エクソソーム由来microRNAの癌バイオマーカーとしての意義	橋口陽二郎	外科	¥1,950,000	補委 文部科学省
大腸癌血清エクソソーム由来microRNAの癌バイオマーカーとしての意義	飯沼久恵	外科	¥650,000	補委 文部科学省
遺伝子型検査を用いた薬物療法の個別適正化プログラム	池田 正	外科	¥200,000	補委 独立行政法人理化学研究所
抗BTLA抗体とHMG-CoA還元酵素阻害薬による冠動脈内膜肥厚抑制効果	内山雅照	心臓血管外科	¥2,600,000	補委 文部科学省
抗BTLA抗体によるIL-10依存性制御性T細胞の誘導と解析(Tadamitsu Kishimoto International Travel Award)	内山雅照	心臓血管外科	¥265,676	補委 日本免疫学会

研究課題名	研究者氏名	所属部署	金額	補助元又委託元
抗BTLA抗体と抗PD-1抗体による心臓移植片の生着延長効果について	内山雅照	心臓血管外科	¥150,000	補委 金原一郎記念医学医療振興財団
医療安全をめぐる応答的規制 (Responsive Regulation) : 民事・刑事・行政の多元的な法的介入と医療安全対策の相互関係を探る	木戸浩一郎	産婦人科	¥300,000	補委 厚生労働省
ヒトパピローマウイルスを標的とする発がん予防の研究	中川俊介	産婦人科	¥2,800,000	補委 厚生労働省
「分子プロファイリングによる新規標的の同定を通じた難治がん治療法開発」(進行性卵巣がんの治療感受性を規定する遺伝子変異の同定)	中川俊介	産婦人科	¥1,500,000	補委 国立大学法人東京大学
国内における食品を介した種々の放射性物質による曝露量の評価	児玉浩子	小児科	¥1,600,000	補委 厚生労働省
機能的有機銅錯体を用いたMenkes病に対する新しい治療法の開発	児玉浩子	小児科	¥400,000	補委 文部科学省
ダウン症候群に合併する急性白血病に生じているゲノム異常に関する研究	菊地 陽	小児科	¥1,300,000	補委 文部科学省
敗血症腎傷害への治療戦略: 糖質コルチコイドを標的とするβ2アドレナリン受容体療法	中村明夫	小児科	¥1,690,000	補委 文部科学省
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	阿部哲士	整形外科	¥180,000	補委 厚生労働省
RANKシグナル制御による新規骨肉腫治療法の開発	中川 匠	整形外科	¥130,000	補委 厚生労働省
「難治性骨折(偽関節)に対する軟骨分化誘導間葉系幹細胞を用いた治療方法の開発」	松下 隆	整形外科	¥5,788,900	補委 (独) 科学技術振興機構
既存血管系再構築による大型臓器再生法の開発	権太浩一	形成外科	¥1,170,000	補委 文部科学省
既存血管系再構築による大型臓器再生法の開発	山岡尚世	形成外科	¥130,000	補委 文部科学省
既存血管系再構築による大型臓器再生法の開発	平林慎一	形成外科	¥130,000	補委 文部科学省
既存血管系再構築による大型臓器再生法の開発	浅野裕子	形成外科	¥130,000	補委 文部科学省
次世代シーケンサーを用いたエクソーム配列解析による黄斑ジストロフィーの原因遺伝子と発症機序の解明	篠田 啓	眼科	¥1,000,000	補委 厚生労働省
経角膜網膜電気刺激の臨床応用	篠田 啓	眼科	¥1,800,000	補委 文部科学省 日本学術振興会
新しい人工内耳(EAS)に関する基礎的、臨床的研究	伊藤 健	耳鼻咽喉科	¥700,000	補委 厚生労働省

小計18

研究課題名	研究者氏名	所属部署	金額	補助元又委託元
「地域生活中心」を推進する、地域精神科医療モデル作りとその効果検証に関する研究	池淵恵美	精神神経科	¥9,000,000	補委 厚生労働省
統合失調症の社会機能測定ツールの開発—社会脳を実世界で評価する	池淵恵美	精神神経科	¥1,180,000	補委 文部科学省
統合失調症の社会認知機能評価尺度の信頼性、妥当性の検証および神経認知、内発的動機付けおよび社会機能との関連に関する研究	池淵恵美	精神神経科	¥1,000,000	補委 厚生労働省
統合失調症に対する認知リハビリテーションの開発と効果検証に関する研究	池淵恵美	精神神経科	¥700,000	補委 厚生労働省
生殖細胞のDNAメチル化解析による自閉症候補遺伝子の探索	栃木衛	精神神経科	¥1,600,000	補委 文部科学省
新規自閉症発症関連遺伝子の探索と発症メカニズムの解明	栃木衛	精神神経科	¥1,500,000	補委 文部科学省
「日本の手術医療は効率的で生産性が高いのか？」	中田善規	麻酔科	¥3,000,000	補委 文部科学省
「データ包絡分析法応用による個別化予防医療確立への挑戦」	中田善規	麻酔科	¥2,900,000	補委 文部科学省
敗血症性脳症の病態におけるHMGB1の役割の解明	坂本英俊	麻酔科	¥1,219,872	補委 日本学術振興会
全国サリドマイド胎芽病患者の健康、生活実態に関する研究	栢森良二	リハビリテーション科	¥800,000	補委 厚生労働省
高齢者、障害者のスキューバダイビングにおける循環生理学的研究	伊佐地隆	リハビリテーション科	¥650,000	補委 科学研究費助成
循環器疾患等の救命率向上に資する効果的な救急蘇生法の普及啓発に関する研究	坂本哲也	救急科	¥16,000,000	補委 厚生労働省
救急医療体制の推進に関する研究	坂本哲也	救急科	¥120,000	補委 厚生労働省
重症循環器疾患等に関する医療内容の評価に資するデータレジストリシステムの構築	坂本哲也	救急科	¥0	補委 厚生労働省
定量化した毛細血管再充満時間によるショックの予測	坂本哲也	救急科	¥100,000	補委 文部科学省
大学医学部および大学院（医学）の緩和医療学におけるコミュニケーショントレーニング開発に関する研究	有賀悦子	緩和内科	¥500,000	補委 公益財団法人 笹川記念保健協力財団

小計16  
合計90

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	別紙2参照			
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

社

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	雑誌名	題名	発表者	所属部門
1	J Hepatobiliary Pncreat Sci . 2014 Jan;21(1):43-50.	A national survey for primary sclerosing cholangitis and IgG4-related sclerosing cholangitis in Japan.	<u>Tanaka A</u> , Tazuma S, Okazaki K, Tsubouchi H, Inui K, Takikawa H.	内科
2	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis 巻: 20, 号: 4, 頁: 321-329, 出版年: 2013	Critical promoter region for statin-induced human endothelial nitric oxide synthase (eNOS) transcription in EA.hy926 cells	<u>Mashimo Y</u> , Ishikawa T, Numakura M, Kinoshita M, Teramoto T	内科
3	Hepato Res 43:577-579, 2013	Acute presentation of AIH - how to find and manage still remains unsolved.	Tanaka A	内科
4	J Autoimmunity 46:35-40, 2013	Geoeidemiology of primary sclerosing cholangitis: A critical review.	<u>Tanaka A</u> , Takikawa H	内科
5	J Hepatobiliary Pancreat Sci 21(1):43-50, 2014	Nationwide survey for primary sclerosing cholangitis and IgG4-related sclerosing cholangitis in Japan.	<u>Tanaka A</u> , Tazuma S, Okazaki K, Tsubouchi H, Inui K, Takikawa H	内科
6	Int Med 53: 1037-1042, 2014	Proton pump inhibitor use is associated with spontaneous bacterial peritonitis in patients with liver cirrhosis.	<u>Miura K</u> , Tanaka A, Yamamoto T, Adachi M, Takikawa H	内科
7	Endoscopy. 2014;46 Suppl 1 UCTN:E264-5.	Asymptomatic colonic spirochetosis with severe inflammation on endoscopy	<u>Abe K</u> , Okubo M, Mashimo Y, Isono A, Ebato T, Yamamoto T, Ishii T, Hoshimoto K, Kita H, Kuyama Y	内科
8	Endoscopy. 2013;45 Suppl 2 UCTN:E294-5.	Identification of intraductal papillary mucinous neoplasm by esophagogastroduodenoscopy	<u>Abe K</u> , Isono A, Ebato T, Yamamoto T, Ishii T, Kita H, Kuyama Y, Kondo F	内科

小計8

番号	雑誌名	題名	発表者	所属部門
9	Endoscopy. 2013;45 Suppl 2 UCTN:E27-8.	Duodenal Mycobacterium genavense infection in a patient with acquired immunodeficiency syndrome	Abe K, Yamamoto T, Ishii T, Kuyama Y, Koga I, Ota Y	内科
10	Life Sci.92:211-217: 2013	Clostridium difficile flagellin stimulates toll-like receptor 5, and toxin B promotes flagellin-induced chemokine production via TLR5	Yoshino Y, Kitazawa T, Ikeda M, Tatsuno K, Yanagimoto S, Okugawa S, Yotsuyanagi H, Ota Y	内科
11	Intern Med. 52: 1487-93: 2013	Changes in the mean platelet volume levels after bloodstream infection have prognostic value	Kitazawa T, Yoshino Y, Tatsuno K, Ota Y, Yotsuyanagi H	内科
12	Open Journal of Gastroenterology, 3; 276-280: 2013.	Incidence of Clostridium difficile-associated diarrhea in patients using proton pump inhibitors: A Japanese study	Kitazawa T, Yoshino Y, Koga I, Isono A, Yamamoto T, Kuyama Y, Ota Y	内科
13	J Clin Med Res. Jun 2014; 6(3): 215-217	Multifocal Cellulitis due to Disseminated Neisseria Gonorrhoeae in a Male Patient	Yoshino Y, Abe M, Seo K, Koga I, Kitazawa T, Ota Y	内科
14	Clin Respir J. 2014 Mar 10.[Epub ahead of print]	Clinical efficacy of peramivir in adult patients with seasonal influenza during the winter of 2012 in Japan	Yoshino Y, Seo K, Koga I, Kitazawa T, Ota Y	内科
15	Sing Med Journal [in press] (2014 Jan accept)	Clinical features of catheter-related candidemia at disease onset	Yoshino Y, Seo K, Koga I, Kitazawa T, Ota Y	内科
16	Cardiovascular Intervention and Therapeutics 2013;28(4):344-351	Angiographic findings of everolimus-eluting as compared to sirolimus-eluting stents: angiographic substudy from the Randomized Evaluation of Sirolimus-eluting versus Everolimus-eluting stent Trial(RESET)	Kozuma K, Kimura T, Kadota K, Suwa S, Kimura K, Iwabuchi M, Kawai K, Miyazawa A, Kawamura M, Nakao K, Asano R, Yamamoto T, Suzuki N, Aoki J, Kyono H, Nakazawa G, Thanabe K, Morino Y, Igarashi K	循環器内科

小計8

番号	雑誌名	題名	発表者	所属部門
17	EuroIntervention 2013;9(7):831-840	Peri-stent contrast staining and very late stent thrombosis after sirolimus-eluting stent implantation: an observation from the RESTART (REGistry of Stent Thrombosis for review And Re-evaluaTion) angiographic substudy	<u>Kozuma K</u> , Kimura T, Suzuki N, Miyazawa A, Waseda K, Honda Y, Morimoto T, Aizawa T, Mitsudo K, Miyazaki S, Yamaguchi T, Isshiki T	循環器内科
18	Psychiatry and Clinical Neuroscience, 67:532-539, 2013	Association of metabolic syndrome with atypical features of depression in Japanese people.	Takeuchi T, <u>Nakao M</u> , Kachi Y, Yano E.	心療内科
19	BMJ Open 2013 Nov 29;3(11):e003643	The relationship between suicidal ideation and symptoms of depression in Japanese workers: a cross sectional study.	Takeuchi T, <u>Nakao M</u> .	心療内科
20	Journal of Religion and Health 53:46-55, 2014	The perspective of psychosomatic medicine on the effect of religion on the mind-body relationship in Japan.	<u>Nakao M</u> , Ohara C.	心療内科
21	Psychotherapy and Psychosomatics 83:120-121, 2014	Definition of psychosomatic medicine and the applicability of DSM-IV-TR to outpatients visiting a Japanese psychosomatic clinic.	<u>Nakao M</u> , Takeuchi T, Fricchione GL.	心療内科
22	Muscle Nerve 2013; 47: 668-72	A new maneuver for repetitive nerve stimulation test in the trapezius muscle.	<u>Ogawa G</u> , Sonoo M, Hatanaka Y, et al	神経内科
23	Muscle Nerve 2013; 48: 185-90	Origin of surface MUPs in hypothenar motor unit number estimation.	<u>Kawamura Y</u> , Sonoo M, Higashihara M, et al.	神経内科
24	Surgery Today 43(8): 915-917,2013	Significant improvement of chronic pain by Pregabalin after thoracotomy: report of four cases.	<u>Noriyuki Matsutani</u> , Masafumi Kawamura	外科
25	Surgery Today. 43(11): 1333-4, 2013	A simple technique using a Lap-Protector for fenestration to manage empyema.	<u>Noriyuki Matsutani</u> , Masafumi Kawamura	外科
26	Jap J Cli Oncol 43(5): 569-70, 2013	Spinal infarction related to the adjuvant chemotherapy for surgically resected non-small cell lung cancer : report of a case	<u>Noriyuki Matsutani</u> , Masafumi Kawamura	外科
27	Surgery Today. 44(4): 712-5, 2014	Successful management of postoperative pain with pregabalin after thoracotomy.	<u>Noriyuki Matsutani</u> , Masafumi Kawamura	外科
28	Lung Cancer. 79(2):118-24, 2013	Distinctive histopathologic features of lepidic predominant nonnode-negative adenocarcinoma 3-5cm in size	<u>Yusuke Takahashi</u> , et al.	外科
29	Int J Med Sci. 10(12):1702-14, 2013	Airway administration of vascular endothelial growth factor siRND induces transient airspace enlargement in mice.	<u>Yusuke Takahashi</u> , et al.	外科

小計12

番号	雑誌名	題名	発表者	所属部門
30	Transplantation 2014 Feb 15; 97(3): 301-9	An Agonistic Anti-BTLA mAb (3C10) Induced Generation of IL-10 Dependent Regulatory CD4+ T Cells and Prolongation of Murine Cardiac Allograft.	内山雅照	外科
31	Open Journal of Obstet Gynecol. 3:5-10, 2013	Effectiveness of intraoperative ultrasonography for para-aortic lymph nodes in preventing unnecessary lymphadenectomy in ovarian carcinoma.	Ryo E, Kita T, Yasugi T, Mizutani K, Seto M, Takeshita S, Ayabe T	産婦人科
32	J Obstet Gynaecol Res 39:1471-1475, 2013	Spinal cord infarction in diabetic pregnancy: A case report.	Sugihara T, Kido K, Sasamori Y, Shiba M, Ayabe T	産婦人科
33	Prostate Int. 2013;1(3):109-12. doi: 10.12954/PI.13019. Epub 2013 Sep 27.	Serum level of follicle-stimulating hormone is associated with extraprostatic extension of prostate cancer.	Ide H, Terado Y, Sakamaki K, Inoue M, Nakajima A, Lu Y, Hisasue S, Yamaguchi R, Muto S, Horie S.	泌尿器科
34	Int J Clin Oncol. 2013 Oct 9. [Epub ahead of print]	Isomorphic red blood cells using automated urine flow cytometry is a reliable method in diagnosis of bladder cancer.	Muto S, Sugiura SI, Nakajima A, Horiuchi A, Inoue M, Saito K, Isotani S, Yamaguchi R, Ide H, Horie S.	泌尿器科
35	Int J Urol. 2014 Aug;21(8):776-80. doi: 10.1111/iju.12442. Epub 2014 Mar 20.	Usefulness of proton magnetic resonance spectroscopy in predicting positive biopsy after high-intensity focused ultrasound for treatment of localized prostate cancer.	Muto S, Kaminaga T, Horiuchi A, Kitamura K, Saito K, Isotani S, Yamaguchi R, Ide H, Furui S, Horie S.	泌尿器科
36	Case Rep Nephrol Urol. 2013 Apr 10;3(1):40-5. doi: 10.1159/000350897. Print 2013 Jan.	Interferon- $\alpha$ Treatment for Growing Teratoma Syndrome of the Testis.	Inoue M, Hisasue S, Nagae M, China T, Saito K, Isotani S, Yamaguchi R, Ide H, Muto S, Horie S.	泌尿器科
37	Journal of Neurosurgical Anesthesiology. 2013 Oct;25(4):399-407.	Clonidine induces sedation through acting on the perifornical area and the locus coeruleus in rats.	坂本英俊、福田 悟、皆川陽一、澤村成史	麻酔科

小計9



番号	雑誌名	題名	発表者	所属部門
38	日本救急医学会雑誌 (24巻2号;P77-P84;2013年)	Predictors of ischemic heart disease in patients with depression disorder in the emergency room: a retrospective study	<u>Moriyuki Terakura,</u> Ryuichi Fujisaki Takaoki Suda, Toshio Sagawa, Tetsuya Sakamoto	救急科 (ER)
39	Documenta Ophthalmol. 2013 Oct; 127(2):103-12.	Liquid Crystal Display Screens as Stimulators for Visually Evoked Potentials: flash effect due to delay in luminance changes.	<u>CS Matsumoto,</u> K Shinoda, H Matsumoto, H Minoda H Funada, A Mizota.	眼科
40	Ophthalmic Res ;51(3):117-23. doi: 10.1159/000356688. Epub 2014 Jan 7.	Comparison of Pattern Visually Evoked Potentials Elicited by Different Response Time Liquid Crystal Display Screens.	<u>Matsumoto CS,</u> Shinoda K, Matsumoto H, Funada H, Sasaki K, Minoda H, Mizota A.	眼科
41	Biomed Res Int. 2014;586060. doi: 10.1155/2014/586060. Epub 2014 Mar 27.	Effect of intraocular lens diameter implanted in enucleated porcine eye on intraocular pressure induced by scleral depression.	<u>Terauchi G,</u> Matsumoto CS, Shinoda K, Matsumoto H, Mizota A.	眼科
42	J Cardiol. 2014 Apr;63(4):281-5.	Long-term adherence to nasal continuous positive airway pressure therapy by hypertensive patients with preexisting sleep apnea.	<u>Furukawa T,</u> Suzuki M, Ochiai M, Kawashima H, Yokoyama N, Isshiki T.	内科
43	Nucleosides Nucleotides Nucleic Acids.2014;33(4- 6):434-8.	Hyperuricemia in hematologic malignancies is caused by an insufficient urinary excretion.	<u>Oka Y, Tashiro</u> H, Sirasaki R, Yamamoto T, Akiyama N, Kawasugi K, Shirafuji N, Fujimori S.	内科
44	Surg Today. 2013 Nov 20.	Re-sentinel node biopsy after previous breast and axillary surgery.	Ikeda T.	外科
45	Asian J Endosc Surg. 2014 Jan;7(1):82-4.	Thoracoscopic management of cervical thoracic duct injuries after thyroidectomy with lymphadenectomy.	Ikeda Y.	外科

小計8

番号	雑誌名	題名	発表者	所属部門
46	Jpn J Radiol. 2014 Mar;32(3):172-8.	Insufficiency fracture of the clavicle after neck dissection: imaging features.	<u>Kanda T</u> , Kitajima K, Saito M, Otsuki N, Nibu K, Sugimura K.	放射線科
47	J Orthop Sci. 2013 Nov;18(6):949-54.	Normal sequential changes in neutrophil CD64 expression after total joint arthroplasty.	<u>Katoh N</u> , Nishino J, Nishimura K, Kawabata C, Hotta Y, Matsui T, Nakamura S, Matsushita T.	整形外科
48	Curr Opin Immunol. 2014 Feb;26:147-56.	Molecular determinants of sterile inflammation.	<u>Kono H</u> , Onda A, Yanagida T.	内科
49	Acta Neurochir Suppl. 2014;119:39-42.	Distal basilar artery aneurysms: conditions for safe and secure clipping.	Nakagomi T.	脳神経外科
50	Allergol Int. 2014 Mar;63(1):127-8.	Suppression of human basophil desensitization by acetylsalicylic Acid.	<u>Nakase Y</u> , Yamaguchi M, Sugimoto N, Nagase H, Ohta K.	内科
51	J Arthroplasty. 2013 Oct;28(9):1644-7.	Accuracy and precision of version angle measurements of the acetabular component after total hip arthroplasty.	<u>Nishino H</u> , Nakamura S, Arai N, <u>Matsushita T</u> .	整形外科
52	FEBS Lett. 2014 Mar 18;588(6):899-905.	Mislocalization of K <sup>+</sup> channels causes the renal salt wasting in EAST/SeSAME syndrome.	<u>Tanemoto M</u> , Abe T, Uchida S, Kawahara K.	内科
53	Clin Exp Nephrol. 2013 Dec;17(6):765-70.	Diagnosis and therapy of atheromatous renal artery stenosis.	Tanemoto M.	内科
54	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2013 Apr 19.	Clinical importance of Familial Pancreatic Cancer Registry in Japan: a report from kick-off meeting at International Symposium on Pancreas Cancer 2012.	<u>Wada K</u> , Takaori K, Traverso LW, Hruban RH, Furukawa T, Brentnall TA, Hatori T, Sano K, Takada T, Majima Y, Shimosegawa T.	外科

小計8

番号	雑誌名	題名	発表者	所属部門
55	J Orthop Sci. 2013 Sep;18(5):803-10.	Three key factors affecting treatment results of low-intensity pulsed ultrasound for delayed unions and nonunions: instability, gap size, and atrophic nonunion.	<u>Watanabe Y</u> , Arai Y, Takenaka N, Kobayashi M, Matsushita T.	整形外科
56	Clin Exp Nephrol. 2014 Feb;18(1):50-5.	Uric acid transporter ABCG2 is increased in the intestine of the 5/6 nephrectomy rat model of chronic kidney disease.	<u>Yano H</u> , Tamura Y, Kobayashi K, Tanemoto M, <u>Uchida S</u> .	内科
57	Arch Orthop Trauma Surg. 2014 Jun;134(6):821-7.	Simultaneous surgery for chronic lateral ankle instability accompanied by only subchondral bone lesion of talus.	<u>Yasui Y</u> , Takao M, Miyamoto W, <u>Matsushita T</u> .	整形外科
58	Arch Orthop Trauma Surg. 2013 Dec;133(12):1669-73.	Reconstruction using an autograft with near complete preservation of the extensor retinaculum for chronic tibialis anterior tendon disruption.	<u>Yasui Y</u> , Takao M, Miyamoto W, <u>Matsushita T</u> .	整形外科
59	Clin Respir J. 2014 Mar 10.	Clinical efficacy of peramivir in adult patients with seasonal influenza during the winter of 2012 in Japan.	<u>Yoshino Y</u> , Seo K, Koga I, Kitazawa T, Ota Y.	内科
60	Acta Hepatologica Japonica. 2013 54巻, 12号, 807-818	Pathological diagnosis of benign hepatocellular nodular lesions based on the new World Health Organization Classification	<u>Kondo F</u> , Soejima Y., Fukusato T.	病理学
61	International Medical Journal. 2013 20巻, 5号, 532-534	A discussion of several approaches for the future based on previous studies of metastatic bone tumors	<u>Fujita Y</u> , Inoue K.	内科
62	Journal of Anesthesia and Clinical Research. 2013 4巻, 7号	Combined use of sugammadex and neostigmine for the reversal of rocuronium-induced profound neuromuscular blockade	<u>Kakinuma A</u> , Nagatani H., Yasuda A., Yoshimura T., Sawai J., Nakata Y.	麻酔科
63	Arthrosc Tech. 2013 Nov;2(4):e467-71.	Endoscopic Surgery for Symptomatic Unicameral Bone Cyst of the Proximal Femur.	<u>Miyamoto W</u> , Takao M, Yasui Y, Miki S, Matsushita T.	整形外科

小計9

番号	雑誌名	題名	発表者	所属部門
64	J Orthop Sci. 2013 18巻, 1号, 181-185	Synovial hemangioma of the hip joint with pathological femoral neck fracture and extra-articular extension	<u>Abe S</u> , Tamayama M, Kobayashi M, Watanabe Y, Miki Y, Tokizaki T, Imamura T, Motoi T, Matsushita T	整形外科
65	J Orthop Sci. 2013 18巻, 1号, 46-80	Infra-isthmal fracture is a risk factor for nonunion after femoral nailing: a case-control study	<u>Watanabe Y</u> , Takenaka N, Kobayashi M, Matsushita T	整形外科
66	Hand Surgery. 2013 18巻, 3号, 425-428	Flexor Puller Reconstruction After Rupture Following Corticosteroid Injections for Trigger Thumb: A Case Report	<u>Kimura M</u> , Kuroshima N, Matsushita T	整形外科
67	Journal of Gastrointestinal Surgery Volume 18, Issue 3, pp 580-583 2014-3-1	Long-term results of seton placement for fistula-in-ano in infants.	<u>Mikiya Inoue</u> Kiminobu Sugito Taro Ikeda Hiroyuki Kawashima Manabu Hanada Takeshi Furuya Kensuke Ohashi Tsugumichi Koshinaga	外科(小児外科)
68	Diabetes & metabolic syndrome. 2013 7巻, 143-147	One-year real-life efficacy of sitagliptin revealed importance of concomitant pioglitazone use in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus.	<u>Suzuki A</u> , Yoshimura N, Mashimo Y, Numakura M, Fujimaki Y, Maeda T, Ishikawa T, Fujimori S, Eto K	内科
69	Journal of hepato-biliary-pancreatic sciences. 2013Apr 19.	Clinical importance of Familial Pancreatic Cancer Registry in Japan: a report from kick-off meeting at International Symposium on Pancreas Cancer 2012.	<u>Wada K</u> , Takaori K, Traverso LW, Hruban RH, Furukawa T, Brentnall TA, Hatori T, Sano K, Takada T, Majima Y, Shimosegawa T	外科

小計6

番号	雑誌名	題名	発表者	所属部門
70	Australasian J Dermatol 55:e21-e23, 2014	Clinically verrucous and histologically discohesive melanoma. A case report with dermoscopic and immunohistochemical observations.	Ohnishi T, Hamano M, Watanabe S	皮膚科
71	Curr Hypertens Rev. 2013 Aug;9(3):170-81.	Types of voltage-gated calcium channels: molecular and electrophysiological views.	Furukawa T.	内科
72	PLoS One.2014 Jan;9巻,1 号,e87279ページ	Inhibitory effects of Japanese herbal medicines sho-saiko-to and juzen-taiho-to on nonalcoholic steatohepatitis in mice	Takahashi Y, Soejima Y, Kumagai A, Watanabe M, Uozaki H, Fukusato T	病理学
73	Hepato Res.2013 Sep;43 巻,9号,959-969	Enhanced expression of farnesoid X receptor in human hepatocellular carcinoma	KUMAGAI Arisa, KUMAGAI Arisa, FUKUSHIMA Junichi, TAKIKAWA Hajime, FUKUDA Toshio, FUKUSATO Toshio	病理学

小計5  
合計73

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有無
・ 手順書の主な内容 倫理委員会への申請受け取りから開催準備、開催、開催審議結果の書類作成、判定書の作成及び送付、申請者への通知書や議事録の送付等を記載している。	
③ 倫理審査委員会の開催状況（持ち回りで審査委員会開催）	有無

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(2)利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有無
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメント規定において、目的・定義・申告すべき教職員と自己申告の時期・自己申告すべき事項・利益相反状態の評価方法・審査結果の報告方法・啓蒙活動と情報の公開・個人情報の管理などについて規定している。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 33 回

- (注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

<内科>

- 集中治療中に発症したサイトメガロウイルス肺炎の1例
- 維持透析加療中に両手関節腫脹と下腿皮疹を発症し加療中に急変した1例
- 診断に苦慮したリンパ球優位胸水の1例
- 経過中に難治性の皮膚筋炎を合併した肺癌の1例
- 転移性大腸腫瘍が疑われた1例
- 入院中に髄膜炎を発症した原発性副腎不全の1例
- 左心不全、房室ブロックを発症し原因として心アミロイドーシスが考えられた1例
- 悪性リンパ腫に対する、臍帯血移植後に重症移植片対宿主病(GVHD)を合併した1例
- 縦隔型肺癌に対する放射線治療開始後に心タンポナーデから死の転帰をとった症例
- paraneoplastic neurological syndromeを呈した小細胞肺癌の1例
- ステント留置後15年経過してから再狭窄の進行を認めた1例
- マクロライド系抗菌薬が無効であったマイコプラズマ肺炎の1例
- 炎症性腹部大動脈瘤の1例
- エホバの証人に対する無輸血移植を行った1例
- 苦痛緩和の為に鎮静を行った大腸癌の症例
- 飲食店での感染が疑われたレプトスピラ症の1例
- パンに含まれる亜麻の実を原因としてアナフィラキシーを発症した1例
- 多発リンパ節腫脹を認めたIgA腎症の1例
- HBV感染症を診たら…
- むくみの精査で進行がん発見！合併症？腫瘍随伴症候群？

<外科>

- 腹膜播種を有する胃がん患者に対する集学的治療について討論する。
- 術後高度進行食道がんに対する最適な治療法の選択について。
- 術後合併症に対する対症療法についての討論。
- 毎月(8月を除く)医局会開催時に、外科のそれぞれのグループから1名が、最新の技術・薬などについて解説する。

<産婦人科>(臨床検討会)

- 分娩室で管理が困難な産褥出血の取扱いについて(子宮内反・頸管裂傷・腔壁裂傷などは除く)
- 骨盤リンパ節郭清の際に左外腸骨動脈にグラフト留置を要した子宮体癌の1例について。
- 胎児間輸血症候群を発症した一絨毛膜三羊膜品胎に胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術を施行した1例について。
- 慢性腎臓病(膀胱尿管逆流症)合併妊娠の一例について。
- 当院における子宮頸癌の手術症例の再発予後因子についての検討
- NIPT(Non-invasive Prenatal Testing)の検査原理と臨床研究の概要
- 胎動計による研究のこれまでとこれから
- 再発子宮頸癌小細胞癌にアムルピシンを使用した1例
- シェーグレン症候群合併妊娠の1例
- 卵巣がん研究～次世代シーケンサー・Liquid biopsyを用いて～
- 広汎子宮頸部摘出術後の症例に対し妊娠中に経腔的子宮頸管縫縮術を施行し得た1例
- 原発性腹膜癌の1例
- 出生後に横顔裂、副耳などの多発外表奇形を認めた1例
- 発生起源が卵管采であることが考えられた腹膜癌肉腫の1例
- 産褥心筋症の2例
- 境界悪性傍卵巣腫瘍の1例
- 新生児劇症型心筋炎を発症した1例
- 婦人科データベースに関して
- 卵巣癌合併妊娠の1例
- 術中迅速で境界悪性と診断され最終病理検査で卵巣癌と診断された2例

<循環器内科>

- カテーテル検査・治療を行った症例について、画像を判読し、画像以外の背景も含めて検討し、今後の方針を決定する。併せて最新の論文やガイドライン、薬剤に関する新しい情報などについても発表、討論する場となっている。
- 経皮的動脈弁置換術を施行予定の症例に関する検討会。翌日に予定されている症例の問題点を挙げ、検討する。また前の週に施行した症例についても、振り返りを行う。

<救急科>

○悪性症候群(あるいは神経遮断薬悪性症候群)鑑別

○2. 9mの高さより墜落、「出血の治療は止血」「診断より決断」

○1. Moore FO, Goslar PW, Coimbra R, Velmahos G, Brown CV, Coopwood TB Jr, Lottenberg L, Phelan HA, Bruns BR, Sherck JP, Norwood SH, Barnes SL, Matthews MR, Hoff WS, de Moya MA, Bansal V, Hu CK, Karmy-Jones RC, Vences F, Pembaur K, Notrica DM, Haan JM. Blunt traumatic occult pneumothorax: is observation safe?—results of a prospective, AAST multicenter study. J Trauma. 2011 May;70(5):1019-23; discussion 1023-5. について

○Fabian TC. Blunt cerebrovascular injuries: anatomic and pathologic heterogeneity create management enigmas. J Am Coll Surg. 2013 May;216(5):873-85. について

○3. Nakahara S, Tomio J, Takahashi H, Ichikawa M, Nishida M, Morimura N, Sakamoto T. Evaluation of pre-hospital administration of adrenaline (epinephrine) by emergency medical services for patients with out of hospital cardiac arrest in Japan: controlled propensity matched retrospective cohort study. BMJ. 2013 Dec 10;347:f6829 について

一部抜粋

2 研修の実績

研修医の人数	163.2人
--------	--------

(注)前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
田中 篤	内科	教授	25年	
関 順彦	腫瘍内科	教授	20年	
一色 高明	循環器内科	教授	39年	
渡邊 雄介	循環器内科	助教	12年	
鈴木 伸明	循環器内科	講師	15年	
中尾 睦宏	心療内科	教授	24年	
有賀 悦子	緩和ケア内科	教授	28年	
園生 雅弘	神経内科	教授	32年	
福島 亮治	外科	教授	30年	消化器外科含む
池田 正	外科	教授	40年	消化器外科含む
佐野 圭二	外科	教授	20年	消化器外科含む
井上 幹也	小児外科	教授	17年	
下川 智樹	心臓血管外科	教授	25年	
今水流 智浩	心臓血管外科	講師	20年	
綾部 琢哉	産婦人科	教授	32年	
梁 栄治	産婦人科	教授	29年	
中川 俊介	産婦人科	講師	24年	
小林 茂俊	小児科	教授	26年	
小川 英伸	小児科	准教授	30年	
松下 隆	整形外科	教授	39年	
平林 慎一	形成外科	教授	38年	美容外科含む
権田 浩一	形成外科	准教授	25年	美容外科含む
篠田 啓	眼科	教授	24年	
溝田 淳	眼科	教授	30年	
伊藤 健	耳鼻咽喉科	教授	26年	
渡辺 晋一	皮膚科	教授	36年	
山口 雷蔵	泌尿器科	准教授	25年	
池淵 恵美	精神神経科	教授	34年	
栃木 衛	精神神経科	准教授	15年	
中込 忠好	脳神経外科	教授	34年	
豊田 圭子	放射線科	准教授	28年	
笹野 伸史	放射線科	講師	12年	
大場 洋	放射線科	准教授	29年	



竹下 浩二	放射線科	准教授	28 年
柿沼 玲史	麻酔科	講師	16 年
伊佐地 隆	リハビリテーション科	准教授	30 年
花上 伸明	歯科・歯科口腔外科	助教	16 年
坂本 哲也	救急科	教授	30 年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況(任意)	
<p>・研修の主な内容(診療放射線技師) ○オペ症例検討会 術前にオペ症例の撮影・診断等の検討を行う。</p> <p>・研修の期間・実施回数 平成25年4月1日～平成26年3月31日 ・ 33回</p> <p>・研修の参加人数 49名</p> <p>・研修の主な内容(栄養士) ONST勉強会 熱傷・神経疾患患者の栄養管理、胃がん術後補助化学療法のポイント等</p> <p>・研修の期間・実施回数 平成25年4月1日～平成26年3月31日 ・ 4回</p> <p>・研修の参加人数 20名</p>	一部抜粋
② 業務の管理に関する研修の実施状況(任意)	
<p>・研修の主な内容(臨床検査技師) ○ISO15189関連カンファレンス ISO15189取得に向けた研修。</p> <p>・研修の期間・実施回数 平成25年4月1日～平成26年3月31日 ・ 3回</p> <p>・研修の参加人数 92名</p> <p>・研修の主な内容(看護師) ○ラダーⅢ以上院内認定看護師研修 各分野における専門領域研修。 (自己導尿指導者、呼吸ケア指導者、トリアージナーズ、創傷管理指導者、癌看護、皮膚排泄ケア、 フィジカルアセスメント、BLS指導者)</p> <p>・研修の期間・実施回数 平成25年4月1日～平成26年3月31日 ・ 60回</p> <p>・研修の参加人数 4,113名</p>	一部抜粋
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況	
<p>・研修の主な内容</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>・研修の参加人数</p>	

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績(計画)を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかにすること)。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 藤森 新
管理担当者氏名	小笠原后香(専任・診療録管理責任者), 和久正志, 稲垣宏治, 飯塚裕之

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		総務課 診療情報管理部 各病棟 各科診療科	診療録の持ち出しは原則禁止している。やむを得ず持ち出す場合は、個人情報管理統括責任者(病院長)の承認を必要とする。持ち出しは記録を行い、保管管理する。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業員数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	各科診療科	
	高度医療技術の開発及び評価の実績	〃	
	高度の医療の研修の実績	〃	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携室	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事保険課・医療サービス課 薬剤部	
第一号に掲げる十一項の各号及び第九条二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	安全管理部 総務課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	安全管理部 総務課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	安全管理部 総務課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	安全管理部 総務課	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	安全管理部 総務課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者相談室	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条二十三第一項第一号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	総務課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	総務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	総務課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	総務課
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	総務課
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	総務課 薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	総務課 医薬品情報センター
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME部 経理課 中央放射線部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部 経理課 中央放射線部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部 経理課 中央放射線部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取り扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 藤森 新	
閲覧担当者氏名	稲垣 宏治、飯塚 裕之、小笠原 后香	
閲覧の求めに応じる場所	閲覧室	
閲覧の手続の概要 様式第 5 に記載の通り、「病院の管理及び運営に関する諸記録」はそれぞれの担当管理部署で適正に保管しているため、医師や歯科医師等から依頼があった場合には、全体の窓口は総務課となる。依頼用紙に記入してもらい、閲覧室内で対応する。		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
・指針の主な内容 1. 安全管理に関する基本的な考え方 2. 安全管理委員会その他の組織に関する基本事項 3. 安全管理のための職員研修に関する基本方針 4. 安全確保を目的とした、事故報告書にもとづく改善策の立案、実施に関する基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 病院職員と患者の情報共有に関する基本方針 7. 患者と家族への説明と同意に関する基本方針 8. 患者と家族等からの相談への対応に関する基本方針 9. 安全管理対策に関する指針および安全管理マニュアルの見直しと周知の方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
・活動の主な内容 1. 安全管理対策の推進 2. 医療事故発生防止のための情報収集と教育 3. 医療事故発生防止ための対策の立案と施設・設備の改善計画の立案および実施状況の調査 4. 発生した医療事故の実情の把握と処理法の立案 5. 発生した医療事故等に関する診療録、看護記録等の調査および指導 6. 発生した医療事故に対する患者、家族等への対応状況の確認および指導 7. 発生した医療事故の原因究明の確認および指導 8. 発生した医療事故に対する再発予防対策の立案・実施・職員への周知徹底	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 12 回
・研修の主な内容  別紙参照	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・医療機関内における事故報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・その他の改善のための方策の主な内容 ○安全管理委員会において事故の事例分析および発生要因の分析を行ない、改善策を立案し、各部署・職員に対し周知徹底する	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有(6名) <input type="checkbox"/> 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有(8名) <input type="checkbox"/> 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
・所属職員：専任( 6 )名 兼任( 13 )名 ・活動の主な内容 1. 安全管理対策の推進 2. 安全管理部会および臨時の安全管理委員会の開催 3. リスクマネージャー会議を開催し、安全管理委員会で決定された事項の周知徹底 4. 医療事故発生防止のための情報収集と教育 5. 院内各部署への立ち入り調査と関係書類の調査 6. 安全管理に関わる関係部署との連絡調整 7. 医療事故発生防止ための対策の立案と施設・設備の改善計画の立案および実施状況の調査 8. 発生した医療事故の実情の把握と処理法の立案 9. 発生した医療事故等に関する診療録、看護記録等の調査および指導 10. 発生した医療事故に対する患者、家族等への対応状況の確認および指導 11. 発生した医療事故の原因の究明および指導 12. 発生した医療事故に対する再発予防対策の立案・実施・職員への周知徹底 13. 安全管理委員会、安全管理部会リスクマネージャー会議の資料および議事録の作成並びに保存等の庶務に関すること	
⑧ 当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無

## 院内感染のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>・指針の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染対策に関する基本的な考え方</li> <li>2. 院内感染対策のための委員会および組織に関する基本事項</li> <li>3. 院内感染対策のため職員研修に関する基本指針</li> <li>4. 院内感染発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針</li> <li>6. 患者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>7. 院内感染対策のための指針および院内感染対策要綱の見直しと周知の方針</li> </ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・活動の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染状況を監視、調査するとともに、対策を立案し、その拡大を防止するための具体策を関係方面に提言するとともに、対策の実施について病院長および感染制御部長に具申する。</li> <li>2. 周知すべき感染症の情報を院内諸方面に伝達する。</li> <li>3. その他、院内感染予防のために必要な業務を行う。</li> </ol>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 8 回
<p>・研修の主な内容</p> <p style="text-align: center;">別紙参照</p>	
<p>④ 感染症の発生状況の報告その他の院何感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況</p> <p>・病院における発生状況の報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <p>○感染制御部・感染制御委員会において感染症発生要因の分析を行い、改善策を立案し、各部署・職員に対し周知徹底する。</p>	

(様式第6)

医薬品の使用に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・活動の主な内容 「第2回医療安全および感染防御に関する研修会」(安全管理部 山内) 平成25年12月17日(火) 17:30~18:30 「第3回医療安全および感染防御に関する研修会」(薬剤部 大竹) 平成26年2月18日(火) 17:30~18:30 ・医薬品の有効性・安全性に関する情報、使用方法について ・医薬品の安全使用のための業務に関する手順書について ・医薬品による事故・副作用等が発生した場合の対応について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・手順書の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・業務の主な内容 1. 医薬品の採用・購入に関する事項 2. 医薬品の管理に関する事項 3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項 4. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 5. 病棟における医薬品の管理に関する事項 6. 入院患者への医薬品使用に関する事項 7. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 8. 他施設との連携に関する事項 9. 院内製剤に関する事項 10. 放射性医薬品に関する事項	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集初他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・医薬品に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・その他の改善のための方策の主な内容 ○公的機関(PMDA等)、医薬品製造販売業者、卸売販売業者、学術誌、インターネット、新聞等から収集し、「DIニュース」等の院内への発信や研修会により従業者へ伝達。	



## 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
② 従業員に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 ・活動の主な内容 1. 人工呼吸器 2. 人工心肺装置及び補助循環装置 3. 血液浄化装置 4. 除細動器(AEDを除く) 5. 閉鎖式保育器 6. 診療用高エネルギー放射線装置 7. 診療用放射線照射装置	年 31 回 の取り扱いについて
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 ・計画の策定 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ○前年度の3月までに計画策定を行い、新年度の4月から計画を開始できるように医療機器安全管理委員会にて医療機器安全管理責任者の承諾をとり実施する。 ・保守点検の主な内容 1) 使用前、使用中、使用後の点検 2) 定期点検および年次点検(各医療機器ごとに期間を設定し、メーカー依頼している。) 3) 点検方法は各医療機器の取扱い説明書を参考に実施。 メーカー主催のメンテナンス講習会に参加し、修了証書を受けた者が中心となり実施。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療関いの安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 ・医薬品に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・その他の改善のための方策の主な内容 ○メーカーからの情報提供やインターネットからPMDA、医療機器安全情報等を収集し、安全管理部および安全管理委員会と連携し、電子カルテインフォメーション、医療機器研修会にて通達、報告をしている。	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

### 1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有 無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人 日本医療機関機能評価機構 平成23年9月27日(火)～平成23年9月29日(木):訪問審査 平成24年2月3日～平成29年2月2日:認定期間	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

### 2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有 無
・情報発信の方法、内容等の概要 ○ホームページ・広報誌 各診療科の紹介や診療内容、特色、外来診療担当表等、患者に対し分かりやすく適切に表示している。 (昨年度は約300万件のアクセス数となっている) ○地域住民や患者に向けた公開講座の実施 年によって異なるが、年間最高で14回実施をしており、社会的にも話題になっている生活習慣病や心臓疾患等、専門分野別にテーマを決め、各診療科の医師が病状や受診のタイミング等も分かりやすく説明している。(延人数約1,800人) ○その他 各診療科、看護部等で地域住民や患者に対し、市民公開講座や体験講座等を実施している。(慢性腎臓病(CKD)に関する講演会、ナーシングフェスタ等)	

### 3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有 無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ○ER及び外傷センター ERは1次から2次までの疾患患者に対応し、その内外傷患者は外傷センターの医師が対応している。また、同じフロアに3次救急に対応する救命救急センターが隣接しているので、救命救急センター・ER・外傷センターの連携も緊密になっている。全診療科に支援体制があり、24時間体制で該当科にコンサルト可能である。 ○循環器センター 循環器内科、心臓血管外科との連携・協力体制で行っている。カテーテルによる大動脈弁に対する人工弁の植え込みも可能であるが、循環器内科、心臓血管外科、麻酔科によるハートチームを形成し更なる連携体制を整えている。 ○その他 集中治療部(GICU)や帝京がんセンター等も複数の診療科と連携体制がある。	